

令和3年度研修実施計画

裁判所職員総合研修所

目 次

第1	研修	1
1	中央研修	1
2	高裁委嘱研修	7
3	自庁研修	9
4	研究	10
5	委託研修	11
第2	養成	12
1	裁判所書記官養成課程	12
2	家庭裁判所調査官養成課程	12

※期間は、休日を除く実日数を記載している。

※このほか各分野における課題への取組の進展状況、喫緊の課題の発生等に応じて、裁判所職員総合研修所長において、別途研修を実施することがある。

第1 研修

1 中央研修

(1) 管理者層

ア 管理業務系

番号	名 称		目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
1	首 席 書 記 官 研 究 会		首席書記官として必要な指導監督等に関する研究を行うことにより、総合的な組織運営能力の向上を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 9.15(水) ～ 9.16(木)	2 日	未定	地・家・簡裁 の首席書記官
2	首 席 家庭裁判所 調 査 官 研 究 会	第 1 回	首席家裁調査官として必要な指導監督等に関する研究を行うことにより、総合的な組織運営能力の向上を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 9. 2(木) ～ 9. 3(金)	2 日	8	高裁所在地の 首席家裁調査 官
		第 2 回			3.11.25(木) ～11.26(金)	2 日	未定	首席家裁調査 官
3	事 務 局 長 研 究 会		事務局長として必要な指導監督等に関する研究を行うことにより、総合的な組織運営能力の向上を図る。	裁判所職員 総合研修所	4. 2.17(木) ～ 2.18(金)	2 日	未定	地・家裁の事 務局長
4	管 理 者 研 究 会 (組 織 運 営) ※ 司 研 合 同		支部運営を始めとする組織運営に関する研究及び討議を行うことにより、幹部職員としての管理能力の向上と意識の高揚を図る。	司法研修所 及び 裁判所職員 総合研修所	3. 5.18(火) ～ 5.20(木)	3 日	未定	次席書記官, 次 席家裁調査官, 総括主任家裁 調査官(次席家 裁調査官の経 験がある者), 次 長
5	次 席 家庭裁判所 調 査 官 等 研 究 会	第 1 回	次席家裁調査官又は総括主任家裁調査官として必要な指導監督等に関する研究を行うことにより、管理能力の向上と意識の高揚を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 4.26(月) ～ 4.28(水)	各 3 日	未定	次席家裁調査 官, 総括主任 家裁調査官
		第 2 回			3. 9.29(水) ～10. 1(金)			
6	管 理 者 研 究 会		幹部職員として、その職務を遂行するために必要な広い視野と高い識見を習得させるとともに、当面する諸問題の研究及び討議を行うことにより、管理能力の向上と意識の高揚を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 4.12(月) ～ 4.16(金)	5 日	未定	新たに局長(高裁を除く。), 次長, 事務部長, 首席書記官, 次席書記官, 総括主任書記官, 首席家裁調査官, 次席家裁調査官, 総括主任家裁調査官, 首席技官(最高裁), 次席技官(最高裁)等に任命された者

イ 研修事務系

番号	名 称		目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
7	研 修 計 画 協 議 会		研修実施計画及び研修運営上の諸問題について協議する。	テレビ会議	4. 1. 6(木)	1 日	25	高裁の次長, 首席書記官, 高裁所在地の 首席家裁調査 官

(2) 中間管理者層
ア 管理業務系

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
8	中間管理者 研 修 I	第1回	裁判所職員 総合研修所	3. 9. 7(火) ～ 9.10(金)	各 4 日	約 100	昇任後おおむ ね7年未満の主 任書記官若し くは主任家裁調 査官、速記管理 官、速記副管理 官、課長補佐、 専門官、班長又 は主任技官の 職にある者
		第2回		3.10.12(火) ～10.15(金)		約30	
		第3回		4. 1.11(火) ～ 1.14(金)		約30	
		第4回		4. 2. 7(月) ～ 2.10(木)		約30	
9	中間管理者研修Ⅱ	中間管理者として困難 な職務を遂行するた めに必要な広い視野と高 い識見及び管理技法を 習得させることによ り、職務意識の高揚と 管理能力の向上を図 る。	裁判所職員 総合研修所	3.12. 7(火) ～12. 9(木)	3 日	未定	訟廷管理官、 訟廷副管理官、 裁判員調整 官、課長、文 書企画官、企 画官、首席技 官、営繕企画 官（最高裁） 又は昇任後お おむね7年以 上経過した主 任書記官若し くは主任家裁 調査官の職に ある者
10	主 任 家庭裁判所 調 査 官 研 修	第1回	裁判所職員 総合研修所	3. 6.23(水) ～ 6.25(金)	各 3 日	未定	主任家裁調査 官
		第2回		3. 6.30(水) ～ 7. 2(金)			

イ. 研修事務系

番号	名 称		目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
11	研修指導研究会	第1回	高裁委嘱研修及び自庁研修の指導者を養成する。	裁判所職員総合研修所	3. 6. 2(水) ～ 6. 4(金)	3 日	約40	次席書記官, 総括主任書記官, 主任書記官, 訟廷管理官, 訟廷副管理官, 裁判員調整官, 次席家裁調査官, 総括主任家裁調査官, 主任家裁調査官, 総括企画官, 課長, 文書企画官, 企画官, 課長補佐, 専門官
		第2回			3. 12. 14(火) ～12. 16(木)	3 日	約50	
12	実務指導研究会	民 事	書記官ブラッシュアップ研修の指導者を養成する。	裁判所職員総合研修所	3. 4. 27(火)	1 日	約40	書記官ブラッシュアップ研修の講師となる予定の者
		刑 事			3. 4. 28(水)	1 日	約40	
		家 事			3. 4. 28(水)	1 日	約35	
		少 年			3. 4. 27(火)	1 日	約25	

(3) 主として管理職以外の層(書記官・家裁調査官・係長等)

ア 裁判事務系

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
13	家事実務研究会 ※ 司 研 合 同	家事書記官及び家事係調査官の事務処理上の諸問題について研究及び討議を行うことにより職務遂行能力の向上を図り, もって適正かつ迅速な事件処理の推進に資する。	司法研修所 及び 裁判所職員総合研修所	3. 11. 17(水)～11. 19(金)	3日	約100	家裁で家事事件を担当する書記官, 家裁調査官
14	少年実務研究会 ※ 司 研 合 同	少年書記官及び少年係調査官の事務処理上の諸問題について研究及び討議を行うことにより職務遂行能力の向上を図り, もって適正かつ迅速な事件処理の推進に資する。	司法研修所 及び 裁判所職員総合研修所	3. 12. 20(月)～12. 22(水)	3日	約100	家裁で少年事件を担当する書記官, 家裁調査官
15	民事実務研究会	第1回	司法研修所 及び 裁判所職員総合研修所	3. 6. 9(水)～6. 10(木)	2日	約50	高・地・簡裁で民事事件を担当する書記官
		※司研合同 第2回					

番号	名 称		目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
16	刑 事 実 務 研 究 会 ※ 司 研 合 同		刑事書記官の事務処理上の諸問題について研究及び討議を行うことにより職務遂行能力の向上を図り、もって適正かつ迅速な事件処理の推進に資する。	司法研修所 及び 裁判所職員 総合研修所	3.11.10(水) ～11.11(木)	2 日	未定	高・地・簡裁 で刑事事件を 担当する書記 官
17	家 事 特 別 研 究 会 ※ 司 研 合 同		後見関係事件等の運用をめぐる諸問題について研究及び討議を行うことにより職務遂行能力の向上を図り、もって適正かつ迅速な事件処理の推進に資する。	司法研修所 及び 裁判所職員 総合研修所	3.10. 7(木) ～10. 8(金)	2 日	約50	家裁で後見関 係事件を担当 する書記官
18	家庭裁判所 調 査 官 特 別 研 修	第 1 回	行動科学等の更なる専門性の獲得及び深化を図り、現場の調査事務の質向上に寄与させ、的確な調査事務を追求する能力の発展を図る。	裁判所職員 総合研修所	3.10.19(火) ～10.22(金)	4 日	約25	家庭裁判所調 査官実務研修 又は平成30 年度以前の家 庭裁判所調査 官応用研修を 終了した者
		第 2 回			3.11.30(火) ～12. 3(金)	4 日	約25	
		第 3 回			4. 1.18(火) ～ 1.20(木)	3 日	約30	
19	家庭裁判所調査官 応 用 研 修		専門的知識及び技能を応用して、複雑困難な事件についても円滑な調査事務の遂行を確保できる能力の向上を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 7. 5(月) ～ 7. 9(金)	5 日	未定	家裁調査官任 官後、3年以 上経過した者 のうち家庭裁 判所調査官実 務研修又は家 庭裁判所調査 官応用研修を 終了していな いもの
20	速 記 官 中 央 研 修		裁判所が当面する諸問題に関する理解を更に深めさせるとともに、裁判部の一員としての職務意識の高揚を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 6.30(水) ～ 7. 1(木)	2 日	約20	速記官（速記 管理官及び速 記副管理官を 除く。）
21	総 括 執 行 官 研 究 会		総括執行官の職務等について知識を付与するとともに、研究、討議等を行うことにより、総括執行官の役割や執行官室の運営等についての認識を深めさせ、総括執行官としての識見をかん養する。	裁判所職員 総合研修所	3. 7. 6(火) ～ 7. 8(木)	3 日	未定	総括執行官

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
22	執行官実務研究会	社会の変化に的確に対応できる事務処理能力を身につけるとともに、前例のない特殊困難な事案等に対応できる知識や論理的思考力を養う。	裁判所職員 総合研修所	4. 3. 1(火) ～ 3. 3(木)	3 日	未定	執行官
23	新任執行官研修	職務遂行に必要な知識を付与することにより、執務能力の向上と職務意識の高揚を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 5. 25(火) ～ 5. 28(金)	4 日	未定	令和2年4月2日以後に執行官に任命された者又は執行官事務取扱書記官に指定された者

イ 事務局事務系

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
24	係 長 等 (総務担当) 研修	職務遂行に必要な知識及び技能を付与することにより執務能力の向上と職務意識の高揚を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 6. 22(火) ～ 6. 24(木)	3 日	約50	高・地・家裁本庁の総務事務を担当する係長、専門職
25	係 長 等 (人事担当) 研修	職務遂行に必要な知識及び技能を付与することにより執務能力の向上と職務意識の高揚を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 7. 13(火) ～ 7. 15(木)	3 日	約70	高・地・家裁本庁の人事事務を担当する係長、専門職
26	係 長 等 (会計担当) 研修	職務遂行に必要な知識及び技能を付与することにより執務能力の向上と職務意識の高揚を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 11. 16(火) ～ 11. 19(金)	4 日	約60	高・地・家裁本庁の会計事務を担当する係長、専門職

ウ 研修事務系

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
27	研修事務担当者研修	研修の企画、実施等に必要な知識及び技能を付与することにより、執務能力の向上と職務意識の高揚を図り、もって高裁委嘱研修及び自庁研修の充実を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 6. 15(火) ～ 6. 16(水)	2 日	約40	研修事務を担当する高・地・家裁の係長、専門職、主任

(4) 新採用職員層

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
28	総合職採用職員 初任研修	将来の幹部職員の候補者としての自覚を促し、職務意識の高揚を図る。	裁判所職員 総合研修所	3. 4. 6(火) ～ 4. 8(木)	3 日	未定	令和2年度裁判所職員採用総合職試験の合格者で、新たに採用されたもの

(5) その他
ア 情報化関係

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
29	情報セキュリティ研 修	情報セキュリティの確保に必要な知識等を習得し、情報セキュリティ事故を未然に防止するための方策の立案・実施に資するとともに、情報セキュリティ事故が発生した場合の対処能力等の向上を図る。	裁判所職員総合研修所	3. 9. 14(火)～ 9. 15(水)	2 日	約60	情報セキュリティ対策事務従事者の事務を補助する者(管理職以上の者)
30	情報処理研 修	第1回 情報化の推進に向けて、職員全体のレベルアップを図るための指導的役割を果たす者を広く養成する。	裁判所職員総合研修所	3. 5. 19(水)～ 5. 20(木)	各 2 日	約60	情報化の推進に指導的役割を果たすことが期待される行(一)職員(家裁調査官を除く。)
	第2回			3. 5. 26(水)～ 5. 27(木)		約60	
31	裁判事務支援システム(簡裁民事・支払督促・高裁刑事・簡裁刑事事件部分)導入研修	第4回 高裁刑事簡裁刑事 簡裁民事支払督促 第5回 高裁刑事簡裁刑事 簡裁民事支払督促	裁判所職員総合研修所	3. 4. 20(火)～ 4. 21(水) 3. 4. 21(水)～ 4. 22(木) 3. 6. 15(火)～ 6. 16(水) 3. 6. 16(水)～ 6. 17(木)	各 2 日	未定 未定 未定 未定	裁判事務支援システム(簡裁民事・支払督促・高裁刑事・簡裁刑事事件部分)の導入事務を担当する職員

イ 採用試験事務関係

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
32	採用試験事務担当者研究会	採用試験事務に必要な知識及び技能についての研究を行うことにより、執務能力の向上を図る。	裁判所職員総合研修所	3. 5. 25(火)	1 日	未定	採用試験事務を担当する管理職員等

ウ CA関係

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
33	CA研修実務試験	前期研修 実務研修 後期研修	裁判所職員総合研修所 実務研修実施庁 裁判所職員総合研修所	3. 6. 24(木)～ 7. 14(水) 3. 7. 16(金)～ 8. 20(金) 3. 8. 23(月)～ 9. 10(金)	15日 23日 15日	未定	裁判所書記官任用試験の第2次試験に合格した者

2 高裁委嘱研修

(1) 管理者層 管理業務系

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
34	次 席 家庭裁判所調査官等 実務研究会	高等裁判所で実施する委嘱研修及び高裁ブロック研修の運営等について研究及び討議を行うことにより、研修等の充実及び改善に寄与させる。	裁判所職員 総合研修所 (分室を含む。) 又は 高等裁判所	実施機関が 適宜決定	1日	未定	次席家裁調査官、 総括主任家裁調査官

(2) 中間管理者層 管理業務系

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
35	新任中間管理者 研 修	職務遂行に必要な管理能力及び管理技法を付与することにより、中間管理者としてふさわしい職員を養成する。	裁判所職員 総合研修所 (分室を含む。) 又は 高等裁判所	実施機関が 適宜決定	3～ 5日	未定	新たに主任書記官、訟廷管理官、訟廷副管理官、裁判員調整官、主任家裁調査官、速記管理官、速記副管理官、課長、文書企画官、企画官、課長補佐、首席技官、班長（最高裁）、主任技官（最高裁を含む）、地裁本庁所在地にある検審局長等に任命された者

(3) 主として管理職以外の層（書記官・家裁調査官・係長等）

ア 裁判事務系

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
36	書 記 官 ブラッシュアップ 研 修	中堅書記官に求められる思考力・表現力等を執務で十分に発揮できるよう、基本的資質・能力を磨き、執務の質の向上につなげる契機とする。	裁判所職員 総合研修所 (分室を含む。) 又は 高等裁判所	7月から9月 までの間で実 施機関が適宜 決定	3～ 5日 ※	未定	書記官任用資格取得後5年以上の者（中間管理者以上の者を除く。）
37	家庭裁判所調査官 実 務 研 究 会	家庭事件の調査上の諸問題について研究及び討議を行うことにより、調査実務の充実及び改善に寄与させる。	裁判所職員 総合研修所 (分室を含む。) 又は 高等裁判所	実施機関が 適宜決定	3日	未定	主任家裁調査官、 家裁調査官

※ 5日を原則とするが、実施機関がその実情に応じて3日まで短縮することも可とする。

イ 事務局事務系

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
38	新任係長研修	職務遂行に必要な知識及び技能を付与することにより係長としてふさわしい職員を養成する。	裁判所職員総合研修所（分室を含む。） 又は 高等裁判所	実施機関が適宜決定	1～3日	未定	新たに係長に任命された者
39	事務官専門研修	総務、人事及び会計の各分野について、その事務を処理するために必要な専門的知識及び技能を付与することにより、事務局において中核的役割を果たしている事務官の執務能力の向上を図る。	裁判所職員総合研修所（分室を含む。） 又は 高等裁判所	実施機関が適宜決定	2～3日	未定	採用後7年以上の行(一)事務官（専門官以上の職にある者を除く。）

(4) 事務官層

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
40	ジャンプアップ研修	職務での問題点の発見と改善等について研究及び討議を行うことにより、仕事の進め方に関する基本的な能力を向上させ、中堅事務官としてふさわしい職員を養成する。	裁判所職員総合研修所（分室を含む。） 又は 高等裁判所	実施機関が適宜決定	3日	未定	採用後7年以上10年未満の行(一)事務官（係長、専門職以上の職にある者及び書記官又は家裁調査官の任用資格を有する者を除く。）※1
41	事務官法律研修	通信研修及び面接研修を通じて基礎的な法学教育を行うことにより、資質及び事務処理能力の向上を図る。	裁判所職員総合研修所（分室を含む。） 又は 高等裁判所	通信研修 実施機関が適宜決定 面接研修 実施機関が適宜決定	9～11日 ※2	約250	採用後1年以上の行(一)事務官（書記官又は家裁調査官の任用資格を有する者、総合職（I種、上級）試験合格者等を除く。）

(5) 新採用職員層

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
42	新採用職員研修	国民全体の奉仕者としての使命を自覚させるとともに裁判所職員として必要な基礎的知識を付与し、裁判所職員にふさわしい心構えをかん養する。	裁判所職員総合研修所（分室を含む。） 又は 高等裁判所	実施機関が適宜決定	2～5日	未定	新たに採用された職員（総合職採用職員を除く。）

※1 令和2年度の対象者で未研のものも含む。

※2 実施機関がその実情に応じて短縮することも可とする。

3 自庁研修

(1) 事務官層

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
43	ステップアップ 研 修	本格的なジョブローテーションが始まる前にその意義を理解させ、動機付けを行うとともに、職務遂行能力の向上を図り、事務局事務等の一般的な知識を付与する。	裁判所職員 総合研修所 (分室を含む。) 又は 高等裁判所	2月から3月までの間で実施機関が適宜決定 ※1	2日	未定	採用3年目の行(-)事務官、行(-)技官 ※2

(2) 新採用職員層

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
44	フォローアップ セ ミ ナ ー	裁判所職員として必要な基礎的知識を確認させ、幅広い視野で職務を遂行する姿勢をかん養する。	高等裁判所 地方裁判所 家庭裁判所	①2月及び3月中で実施機関が適宜決定 ②実施機関の実情に応じて、①に定める日に加え、実施機関が適宜決定	約 3日	未定	採用後1年程度を経過した行(-)事務官、行(-)技官
45	フレッシュ セ. ミ ナ ー	職員として当面必要な知識を付与し、職場への円滑な定着を図る。	高等裁判所 地方裁判所 家庭裁判所	採用後勤務初日及び2日目	2日	未定	新たに採用された職員

(3) その他

番号	名 称	目 的	実施場所	実施時期	期間	人員	対 象 者
46	高裁ブロック研修	職務遂行に必要な知識、技能等を習得させ、執務能力の向上と職務意識の高揚を図る。	裁判所職員 総合研修所 (分室を含む。) 又は 高等裁判所	実施機関が適宜決定			高裁管内に勤務する職員
47	自 庁 研 修	職務遂行に必要な知識、技能等を習得させ、執務能力の向上と職務意識の高揚を図る。	最高裁判所 高等裁判所 地方裁判所 家庭裁判所	実施機関が適宜決定			最高裁、高地家簡裁に勤務する職員

※1 実施機関がその実情に応じて適宜決定することも可とする。

※2 令和2年度の対象者で未研のものも含む。

4 研究

番号	名 称	目 的	実施場所	実 施 時 期	期間	人員	対 象 者
48	合 同 実 務 研 究	異なる職種の職員に裁判所の職種間の連携、協働に関する研究を共同してさせることにより、実務の改善及び向上に寄与させる。	研究員が所属する裁判所	3. 9 ～ 4. 3	7 月	未定	書記官、家裁調査官等
49	書 記 官 実 務 研 究	書記官実務における諸問題について、体系的かつ実証的な研究をさせることにより、実務の改善及び向上に寄与させる。	裁判所職員総合研修所	3. 4 ～ 4. 3	1 年	2	書記官
50	家庭裁判所調査官実務研究 (個人及び共同研究)	家庭事件調査実務に必要な理論及び技法に関する実証的研究を行わせることにより、調査実務能力の向上に寄与させる。	研究員が所属する家庭裁判所	3. 7 ～ 4. 3	8 月	未定	(個人研究) 家庭裁判所調査官実務研修又は令和2年度以前の家庭裁判所調査官応用研修を終了した者 (共同研究) 家裁調査官
	同 上 (指定研究)		研究員が所属する家庭裁判所及び裁判所職員総合研修所	3. 4 ～ 6. 3	3 年	4	家庭裁判所調査官実務研修又は平成30年度以前の家庭裁判所調査官応用研修を終了した者
51	家庭裁判所調査官関係機関特別研究 (家事及び少年関係機関についての研究)	関係機関における業務の実際に関する研究を行わせることにより、調査実務能力の向上に寄与させる。	派遣先関係機関及び研究員が所属する家庭裁判所	3. 7 ～ 4. 3	8 月	未定	家庭裁判所調査官実務研修又は令和2年度以前の家庭裁判所調査官応用研修を終了した者
	同 上 (心身の鑑別についての研究)		矯正研修所及び研究員が所属する家庭裁判所	4. 2 ～ 3	1 月	3	家庭裁判所調査官実務研修又は平成30年度以前の家庭裁判所調査官応用研修を終了した者
	同 上 (更生保護についての研究)		法務総合研究所及び研究員が所属する家庭裁判所	3. 9 ～ 11	2 月	3	家庭裁判所調査官実務研修又は令和2年度以前の家庭裁判所調査官応用研修を終了した者

5. 委託研修

番号	委託庁	名 称	人 員
52.	人 事 院	行政研修（課長補佐級）	未定
53.	財務省	会計事務職員研修	未定
54.		会計事務職員契約管理研修	
55.		予算編成支援システム研修	
56.		予算担当職員初任者研修	
57.		決算書作成システム研修	
58.		会計監査事務職員研修	
59.	国税庁	税務大学校本科特別研修	未定
60.	総務省	情報システム統一研修	未定

第2 養成

1 裁判所書記官養成課程

番号	部	期	実施時期等	期間	人員	対象者
61	第一部	第18期	3. 4. 1(木) 入所 4. 1(木)～ 予修期修習 5. 10(月) 入所式 5. 10(月)～ 第1期研修 7. 19(月)～ 実務修習 9. 27(月)～ 第2期研修 4. 3. 25(金) 修了	1年	227	第一部入所試験合格者で、最高裁が指名したもの
62	第二部	第17期 (2年生)	2. 4. 6(月) 入所 4. 6(月)～ 裁判事務修習 10. 16(金)～ 第1期研修 3. 4. 1(木)～ 第2期研修 7. 19(月)～ 実務修習 9. 27(月)～ 第3期研修 4. 3. 25(金) 修了	2年	78	第二部入所試験合格者で、最高裁が指名したもの
		第18期 (1年生)	3. 4. 1(木) 入所 4. 1(木)～ 予修期修習 5. 10(月) 入所式 5. 10(月)～ 裁判事務修習 10. 15(金)～ 第1期研修 4. 4. 1(金)～ 第2期研修 7. 下旬～ 実務修習 10. 月上旬～ 第3期研修 5. 3. 24(金) 修了	2年	98	

2 家庭裁判所調査官養成課程

番号	期	実施時期等	期間	人員	対象者
63	第17期	2. 4. 1(水) 入所 4. 1(水)～ 実務修習(予修期) 5. 7(木)～ 前期合同研修 8. 3(月)～ 実務修習 3. 9. 16(木)～ 後期合同研修 4. 3. 25(金) 修了	2年	48	令和2年度採用の家庭裁判所調査官補で、最高裁が指名したもの
64	第18期	3. 4. 1(木) 入所 4. 1(木)～ 実務修習(予修期) (4. 6～8を除く。) 5. 10(月) 入所式 5. 10(月)～ 前期合同研修 7. 19(月)～ 実務修習 4. 9. 中旬～ 後期合同研修 5. 3. 24(金) 修了	2年	54	令和3年度採用の家庭裁判所調査官補で、最高裁が指名したもの